

表紙

・新しい生産者も加わり、お茶を通して
これからの関係をつくっていかう

P2

・伝えあう原点「私からあなたへ」エスコ
ープ大阪の魅力を伝えて仲間を増やそ
う!

P3

・活動報告
「シャボン玉首長メッセージ」取得活動/
豚肉加工品開発/エッコログループ交流
・職員紹介 ・生産者紹介

P4

・エスコープ大阪2020年度方針
・山村瑞子さんの詩
・理事会報告・おたよりネット・編集後記



新しい生産者も加わり、 お茶を通してこれからの 関係をつくっていかう

自分たちが実現したいことに根気 よく取り組む農産委員の姿から

京都府和束町の「中井製茶」では、大変難しいと言われる緑茶の無農薬栽培に取り組んでいます。そのきっかけとなったのは、組合員の農業に対する関心の高さだったと言います。中井製茶とエスコープ大阪の出会いはいくつ年頃。エスコープ大阪の前身である泉北生協にお茶を納品していたお茶屋さんに、組合員が「このお茶を作っている生産者は誰ですか」と聞いたことが始まりだったそうです。当時は学生だった中井章洋さんは、お父さんから組合員と交流した話をよく聞いていたそうです。今回は先代から約40年のお付き合ひになる中井製茶の当主、中井章洋さんにお話を伺いました。

(聞き手:理事長 北辻美樹)



中井製茶

中井 章洋さん

中井 多くの組合員さんがバスツアーを組んで茶摘みに来てくれました。お子さんを一緒に連れて来られたお母さんが、茶摘みに熱中しすぎたのか、お子さんが迷子になり、大騒ぎになったことを覚えています。警察官に保護されてお子さんが無事に帰ってきたときは、警察官から「あなたがお父さんですか」と言われて。今となつては笑えるエピソードです。また、今に続く無農薬栽培のきっかけとなった、組合員による無農薬茶葉の実験栽培も印象深いです。最初は無農薬栽培な

北辻 中井さんが後を継がれてからもさまざまな形で組合員交流が続けてきました。中井さんと組合員が一緒に開発した消費材『そのまま緑茶』は、無農薬で栽培しているお茶の葉も捨てずに食べたいという組合員の要望から誕生し、『玄米茶』は茶葉だけでなく玄米も無農薬にこだわりたい組合員の思いに応え、産直米生産者「針江げんき米栽培グループ」の石津さんが無農薬の玄米を提供してくださり、すべて無農薬で作ることができました。組合員と一緒に取り組んだ中で印象に残っていることはありますか。

んかできるのかと心配してました。意外とうまくいっていったようですが、虫とは葛藤してました。大変な作業も「みのむしツアー」と銘打って、虫取りに来たり、草引きに来たりと、何でも根気強く、そして楽しんで取り組む組合員の姿が印象的でした。当時の農産委員の姿を見て自分も無農薬でお茶の栽培をやってみよう。組合員の思いに応えたいと思いました。

消費材の開発では組合員の思いを実現していく工程で私も知らなかったことを知る学びの場になりました。『そのまま緑茶』は、健康食品の会社から粉末の緑茶を販売しているのを見た組合員からの「無農薬の中井さんのお茶で作れたら安心だ」という声から始まりました。茶葉を粉砕する機械を探し、試行錯誤する中、やっとできた消費材です。『玄米茶』は、開発前からも消費材としてあったのですが、国産の玄米を仕入れて製造してただけで、その玄米がどこの誰が作っているのかということまでは気にしていませんでした。それならばと組合員が、「明日、針江の石津さんに会うから聞いてみるわ」と言われ、組合員が私たち生産者同士をつなげてくれました。

北辻 本部の組合員室に当時の交流の写真がたくさん残っています。組合員が、いろんな取り組みを工夫しながら生産者と一緒に課題を解決していったことは、組合員活動の本質だと思っています。これからの一緒に私たちの思いを実現していきたいと思っています。

中井 写真を見ると、懐かしい顔がいっぱいで、あれもこれとも思い出しますね。今後もいろいろ

な取り組みと一緒にやっていきましよう。

私たちが
つなげていく

北辻 中井さんの息子さんが後を継がれていますが、息子さんへの思いを聞かせてください。

中井 息子が後を継いでくれて、今はお茶の加工をしています。組合員のほうを向いて真摯なお茶づくりをしてくれたらと思っています。

北辻 昨年、中井製茶に新しく原料茶葉を提供する生産者が増えましたね。以前、植田修さん、トーンナムパトントットさん(通称:ジャックさん)に産地でお話を伺った際に、「茶葉の無農薬栽培方法を探索しながら、和束町を盛り上げてお茶の文化も広めたい。中井さんにはお茶に対する情熱も含め、教えてもらうべきことがたくさんある」とおっしゃっていたのが心に残っています。

中井 ふたりとは、和束のボランティアワークでつながりました。和束の茶畑を守り広げていく頼もしい仲間です。息子とふたりの仲間が加わり、これから情報発信も含めて、もっと外に向かって和束のお茶を広めていってほしいと思います。

北辻 組合員が無農薬のお茶を求めて自ら動き、中井さんが応えてくださったおかげで現在の中井さんのお茶があります。これから私たち組合員が取り組もうと思うのは、やはり食べてつなげることです。今は大量生産されたペットボトル入りのお茶が飲まれる時代ですが、ペットボトルの向こう側のことも考え、持続可能な食・環境の視点を持てるような私たちでありたいと思います。これからも中井さん親子と植田さん、ジャックさんとともに、お茶を通して社会の在り方を考えられるようなことを一緒に取り組んでいきたいと思います。



茶摘みの後に。中井さんの野点で一服。

伝えあう原点「私からあなたへ」 エスコープ大阪の魅力を伝えて 仲間を増やそう！

エスコープ大阪では毎年、春と秋におさそいキャンペーンを設けて、おおぜいの組合員でお友達に積極的な声かけをおこなって新規組合員を増やす取り組みをしています。各地域委員会では秋のおさそい推進月間を設け、統一して取り組みます。より多くの方に声をかけて、みんなで推進月間を盛り上げていきましょう。

私からあなたへ エスコープ大阪の魅力を伝えるには



昨年度の生産者コラボの様子

※ 昨年は、エスコープ大阪初の取り組みである「生産者コラボ企画」を開催しました。2地域合同でおこなった委員会は、今までのおさそい企画と違う視点をもって、会場選びから、組合員への参加呼びかけに奮闘しました。「生産者コラボ企画」は、地域委員会、生活クラブの提携生産者、職員のチームワークで、予想以上の反響と新加入者がありました。地域委員会は、改めて自分たちの活動が実を結び、伝えることの手ごたえを得ることができました。

今年度はコロナ禍により、昨年のような「生産



エスコープ大阪設立当時から続くおさそい活動。写真は1990年代。

者コラボ企画」が開催できないことは残念ですが、この状況で、どうやって消費材の魅力を伝えようか、組合員と生産者、産地の関係をどう伝えるか、取り組みや運動への理解を共有するにはどうすればいいのかを考えました。たどり着いたのはエスコープ大阪の前身である泉北生協時代からの組合員ひとりひとりが友達や知人に声をかける活動です。この秋のおさそい推進月間では、そのひとりひとりの組合員の声かけ活動を地域委員会が後押しし、エスコープ大阪の魅力を伝えて仲間を増やす活動を実施します。

※生産者コラボ企画は、通常の生産者交流会とは違い、生産者の協力のもと実施する組合員拡大を目的とした生産者交流企画です。

仲間と実現してきた活動の歩み

今年度エスコープ大阪は設立50周年を迎えま

した。エスコープ大阪設立から今日まで、組合員が、消費材を食べ続け、生産者と交流し、さまざまな問題や課題を解決する関係をつくり、協力して社会にひろげたい運動をすすめてきました。

泉北生協時代の地場野菜の自主運営は、各地域が自分たちの住む地域でできる限り農薬を減らして栽培された野菜を手に入れたいとの思いで、生産者探しから始まった活動です。当時は畑にできた作物はすべて食べる全量消費の約束でしたが、現在では、生産者と作付け会議で協議しながら契約数量を決定し、『旬菜セット』の内容を組み立てて、定期登録で届けるしくみです。

このように私たちは、「どのような内容」で「どのように食べたいのか」を生産者と、同じ思いのおおぜいの仲間と実現してきました。他にも「(株)ウインタークラブ」の豚肉の冷蔵流通化や独自消費材の開発、再生可能エネルギーの取り組みなど、組合員が開発から利用結果に至るまで責任を持ってすすめてこられたのは、おおぜいの仲間がいたからこそです。



おおぜいの仲間がいるからこそできる、地場野菜の取り組み

【秋のおさそい推進月間】

今年の秋のおさそい推進月間では、全地域統一のおさそい企画を実施します。お友だちを誘った「私」も一緒に楽しみながら気づき、共感できる企画を開催し、仲間を増やします。



どんな企画になるかは、全体ニュースと地域委員会ニュースで発表するので楽しみにしてください。今からお誘いするお友だちを考えておいてくださいね。



わたしの「これ、いいよー」が、「これ、いいねー」になってかえってくる。

自分のお気に入りの消費材を紹介して、食べた感想を話し合ったりするのは、楽しいですね。消費材の情報や組合員の取り組みを紹介して、エスコープ大阪を紹介してください。あなたの「これ（エスコープ大阪）、いいよー」と紹介した消費材が最初の一步となって、組合員の運動への共感につながり、「これ（エスコープ大阪）、いいね。」という声となってかえってきます。ひとりひとりの声かけ活動で仲間を増やして、次の世代に渡したいサステイナブル（持続可能な）社会づくりの輪をひろげていきましょう。

環境委員会

「シャボン玉首長
メッセージ」
取得活動

6月1日(月)～
7月10日(金)

環境担当理事 山路 登葉

2020年度シャボン玉月間ポスター



行政も巻き込んだセっけん運動

応援のメッ
セージをいた
だきました。

今年度の
メッセージで
目を引いたの
は、新型コロナ

エスコープ大阪では毎年7月の「シャボン玉月間」に先立ち、配達エリア内の市町村役場を訪問して、「シャボン玉首長メッセージ」取得活動をしています。この活動は合成洗剤ではなくせっけんを推進している私たちの取り組みを行政に伝え、理解してもらうことを目的としています。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、訪問せず電話で依頼し、21自治体のうち19自治体の首長からメッセージをいただきました。

エスコープ大阪本部の所在地である堺市からは、「水環境保全の大切さについては賛同するが、洗剤メーカーとの関係があり中立の立場を取りたいのでメッセージは差し控える」という残念な回答がありました。が、そのほかの自治体には私たちの活動を理解していただき、うれしい

福祉委員会

エコログループ
交流

福祉担当常務理事 吉田 正美

今どきの「近所づきあい」をしてみませんか

組合員同士の助け合いのしくみとして、エスコープ大阪では2015年に始まったエコロ制度。2019年度の制度改定で、「エコログループ」づくりに新たに

取り組むことになりました。「エコログループ」は、近隣のエスコロ制度加入者3名以上で作成、困ったときにグループ内で助け合うことを目的としています。

ナウイルスの感染拡大防止対策として、「セっけんによる手洗いの重要性が見直されている」という内容で、セっけんの有用性に理解を示す自治体がありました。また約3分の1の自治体が、プラスチックごみによる海洋汚染問題についてメッセージの中で言及しており、水環境保全の活動がセっけん運動だけに留まらないことを改めて知る機会となりました。

「シャボン玉首長メッセージ」取得活動は、市民と自治体の協力で水環境を守ることをめざしています。今後も、生協だけでなく自治体レベルでもできる環境保全活動につなげていけるよう、「セっけん運動ネットワーク」と連携して、全国運動として取り組みます。

「シャボン玉首長メッセージ」取得活動は、市民と自治体の協力で水環境を守ることをめざしています。今後も、生協だけでなく自治体レベルでもできる環境保全活動につなげていけるよう、「セっけん運動ネットワーク」と連携して、全国運動として取り組みます。

豚肉加工品開発チーム

豚肉加工品
開発

7月15日(水)
エスコープ大阪
本部(堺市南区)

理事長 北辻 美樹

意見をまとめるのが大変！ 豚肉加工品開発会議



エスコープ大阪第6次中期計画で、関西6生協の組合員約4万世帯の食べる力を結集し、生産と消費を見つめなおし、より関係を強固なものにして持続可能な生産と消費に取り組むことを目的とし、今回50周年記念の消費材として豚肉加工品の開発に取り組んでいます。チームのメンバーである消費委員会の理事も職員も開発に初めて関わる者が多い中、協議しながらすすめています。

第1回の開発会議では、既存の消費材と重ならないことや、利用しやすい金額での開発を確認し、組合員要望を出しました。第2回の会議では「(株)ウインナークラブ」を訪問し、加工品の作業工程を見学し、私たちの求める加工品についてのウインナークラブからの意見を確認しました。第3回の会議では、今まで出した意見がカタチになった試作品を試食しました。試作品は大

けない状態で、心に元気をもたらしてくれる。その時に開設した「LINEグループ」(かしはらエスコロ)でいろんな情報が入ってきます。地域でお互いに助け合うエコロ制度。コロナが落ち着いたら活動が楽しみです。(柏原エスコログループ)

「エコログループの報告書より抜粋」・遠くの友人、家族も大切ですが、近くの知人の大切さ。(エスコープ大阪の食材を選んでいという連帯感と信頼。動



英風荘ママグループの交流会

きな径のソーセージでイタリア伝統の「モルタデラ」に赤ピーマンを入れたものと、乾燥させずに柔らかい口当たりのソフトサラミ、野菜パウダーなどで着色を希望しているソーセージの3品でした。試食した組合員からはいろいろな意見が飛び交いまとめるのが大変でしたが、改めて組合員の出した要望に合うもの、既存の消費材とかぶらないものという視点で議論しました。その結果、モルタデラと着色希望のソーセージを開発品候補として決定し、改善点をまとめました。モルタデラには赤ピーマンだけではなく緑のピーマンも入れて華やかになるよう希望しました。着色希望のソーセージに関しては野菜パウダーでどれくらい発色するかやってみないとわからないとのこと、2品とも次回の試作品がどのようなものになるか、期待で胸がふくらみます。

今後も改善点を出しながら試作を重ね、来年2月頃に消費材としてデビューさせたいと思います。その日を楽しみに待っていてください。

が、エコログループを作って、お互いにエコロ制度をカジュアルに利用できるとなりました。より仲が深まった感じがします。(英風荘ママグループ)

近くに顔見知りの組合員がたくさんいたら、いざという時にはたすけ合え、安心して暮らすことができます。昔のような「近所づきあい」は難しいですが、「エコログループ」を通して、今どきの「近所づきあい」をしてみませんか？

※エコロ制度加入者が3名以上集まれば、エコログループを作ることができます。詳しくはエコロ事務局に問い合わせください。

早くも1年！28歳の関西デビュー！

職員さんが
自己紹介!!



竹市 佳生
(28歳)

エスコープ大阪在籍年数

11ヵ月

〔共同購入フロア(堺支所)〕

初めまして。入協して9月で一年になります竹市です。大阪へ越してきてまだ一年です。なぜ大阪へ来たのか？といいますが、前職は名古屋のホテルに勤めており、大阪の店舗に2ヵ月ほど手伝いに来た時に、大阪人の温かさを感じ、大阪の地で働いてみたいと思ったのがきっかけです。長野で生ま

れ、岐阜で育ったので、関西弁は怒っているように聞こえ、当初は怖いイメージがありました。私は話をするのが大好きなので、こんなに毎日が楽しいと思える仕事に出会えて本当に良かったです。学ぶ事は山ほどあり、毎日が勉強で大変ですが、いつでも頼れる先輩職員が近くにいます。環境にも恵まれています。私も10年後、頼れる存在になれるよう、今ががんばり時です。

食に関心もない私に関心を持たせてくれて幸せにしてくれたエスコープ大阪には感謝の気持ちを忘れず、組合員の皆さまに幸せを届けていけるように今後もがんばってまいります。

食用油といえば無色透明、無味無臭のサラダ油の時代だった1986年に、「まだ日本にないものを売りたい」とオリブオイルを売る会社を酒井さん

の祖父が立ち上げられ、現在に至るそうです。以前に仕事で海外に行った祖父はヨーロッパで、日本の食用油はなぜ原料(植物)の味や香りがしないのかと不思議がられた経験から、精製しない本来の油

を日本にも伝えたいと思ったそうです。

酒井さんは化粧品会社で営業職をしており、その時使っていたアルガンオイルの脂肪酸組成などについて、理化学的な勉強をしていた祖父に聞きに行ったそうです。それがきっかけで、「(株)ヴィボン」に入社され、現在は貿易事務の仕事がされています。ギリシャやイタリアの人と接することが多く、陽気

でいい意味でのいい加減さが素敵だと感じている、自分も休息の時間を大切に、自分のために時間を使う生き方をしたいと思うようになったそうです。

最近コロナ禍による自粛生活の中、料理を作るのが楽しめで、食べることも楽しんでいたら、6kgも太ってしまったと明るく笑う酒井さんでした。

私たちの生産者

私たちの消費材の生産者を取り上げ、その人物像や消費材・生活クラブへの想いなどを紹介します。

<第12回> 株式会社ヴィボン 取締役 酒井 七生さん



酒井さん(左)とギリシャのオリブオイル生産者



第1回
理事会報告 <7月1日>

【5月度決算報告】

- 供給高 2億6,168万円(前年同月比140%)
- 組合員数 19,088名(前月比+128名)
- 一人当たりの出資金 83,321円

【6月の放射能検査結果】

6月は連合消費材737検体、エスコープ大阪独自の消費材3検体の放射能検査を実施しました。生活クラブ自主基準を超えた検体はなく、すべての消費材を供給しました。

【決議事項】

- ①2020年度役員報酬額の決定

【協議事項】

- ①第54回エスコープ大阪通常総代会開催報告と運営について
- ②2020年7月以降の環境委員会・消費委員会の体制
- ③2020年度組織体制(事務局体制含む)
- ④温州みかんシーズン予約取り組み
- ⑤登録等総称の呼称について
- ⑥「堺市域におけるプラスチック削減に関する協定」実施報告書の提出
- ⑦グリーンシステムキャンペーンの取り組みについて
- ⑧オンライン交流会
- ⑨新加入者フォロー企画のすすめかたについて
- ⑩夢基金からの「コロナ禍対策特別寄付活動の依頼」についての協議結果
- ⑪甲状腺検査の判断
- ⑫常務理事会・理事会議案についての常務理事会見解

【報告承認事項】

- ①「六ヶ所再処理工場」新規制基準審査に反対するパブリックコメントの提出
- ②関西ワーカーズ・コレクティブ連合会との共同声明調印の報告
- ③㈱生活クラブ関西への保証金の差し入れ
- ④大阪府新型コロナウイルスたすけあい基金への拠出について

おたよりネット



「rippる」の感想やご意見、その他投稿は下の「おたよりネット」欄で。配達時に提出、あるいは店舗の専用BOXまで。

210号3面「50周年事業進捗報告」を読んで

河内長野・大阪狭山地域 Iさん

エスコープ大阪50周年記念のラッピングバス、走ってますよー。背景のピンク色も映え色とりどりの消費材が目をはいていました。今日もどこかの路線で走っているんだろうな。次また見るのが待ち遠しいです。

210号1面「未来に向けて産地づくりをすすめよう」を読んで

紙面モニター Rさん

王隠堂さんのお話を読みエスコープ大阪(泉北生協)は時代を何歩も先に進んでいたと改めて思いました。それ故ご苦労も多かったと思います。今後も生産者さんと共存できるよう、知恵を出し合い、安心安全な食料を食べ続けていけたらと思いました。生産者さんとエスコープが出会えたことは必然であったと思います。

編集後記

忙しい毎日にホッと一息ついてお茶を飲むと、幸せを感じます。もちろん急須で入れて飲みたいですが。以前、中井さんの茶畑を訪れたときに野外で淹れていたいただいた新茶は格別でした。急須を使って、ゆったりとお茶を愉しむ時間を大切にしたいと思います。(K)

発行:生活協同組合エスコープ大阪 制作:W.Co パックプランニング

生活協同組合エスコープ大阪

〒590-0151 堺市南区小代727

TEL.072-293-4660 FAX.072-341-0022

https://s-osaka.seikatsuclub.coop/

エスコープ大阪
2020年度方針



台所から環境問題に取り組むことができる「グリーンシステム」

ここ数年、毎年のように超大型台風や豪雨による災害が発生しています。地球過熱化による気候危機を感じずにはいられません。私たちの生産者も大きな被害を受けており、近年世界中で起っている災害は、地球過熱化が原因のひとつであることはさまざまな研究により明らかです。エスコープ大阪では、2020年度の方針に掲げている「グリーンシステム」の取り組みをさらにすすめて、地球過熱化の原因であるCO₂を削減します。

世界から「化石賞」を贈られるほど消極的な日本の地球過熱化対策

2015年に「パリ協定」が採択され、世界全体で地球過熱化対策をすすめることになりました。世界の平均気温の上昇を産業革命以前に比べ2℃から1.5℃に抑える努力をすることが掲げられ、世界各国は温室効果ガスの排出量を削減する方向に動き始めました。ところが日本は石炭火力発電の利用について、どうしていくのが明言を避けました。地球過熱化対策に消極的な日本に対し、皮肉交じりに贈られた賞が「化石賞」であり、不名誉極まりないものです。

500ml Rびんの回収率アップキャンペーンに取り組みます

エスコープ大阪では私たちにできる方法で温室効果ガス削減に取り組んでいます。それが「グリーンシステム」です。地球生態系のための「ごみ減量、持続可能な資源循環型社会を目指す」で始まったこの活動は、Rびんの回収と再利用のみならず、ピッキング袋などプラスチック類の回収・リサイクルにまで広がっています。びんをリユースすることは、リサイクルや新しくびんを作ることより何倍もエネルギーを節約でき、CO₂の削減になるのです。

エスコープ大阪はこの秋9月7日から11月27日、500mlびん回収率73.5%(2019年度58.5%に比べて15%アップ)を目標にキャンペーンを実施します。500ml Rびんの認知度を上げるため、一定期間500mlのRびん消費材を5%値引きしたり、Rびんを2本まとめて回収に出した組合員には抽選でプレゼントをする予定です。キャンペーンについて詳しくは環境委員会ニュースでお知らせします。ぜひ多くの組合員のご理解とご参加をお願いします。みんなでごみの減量とCO₂削減に取り組ましましょう。

環境担当理事 大崎宏子

山村瑞子さんの詩

50周年記念として初代組合員理事長(1973年～1982年在任)の山村瑞子さんが作られた多くの詩の中から生活協同組合についての詩を連載します。

ありがとう

―青空市に力を出してくださいましたあなたに―

かじかんだ手で
子どもたちは
ビラを一枚一枚配ってくれました
その数は二万枚

一日がかりで作った
大きな立て看板は
なかなか乾いてくれません

二時間マイクしつづけた
彼女の声はがらがらです

役所へも新聞社へも行きました
かつかと腹を立てたり笑ったり
私たちがこの一月で
みんなして出した力は
のべにして
何千時間になるかしら

こんなにあふれるお客さんを迎えて
やっぱり嬉しいですね
見えないところでやってきた努力が
土台になって
信頼みたいなものが
育って来たのではないですか
生協って
えたいの知れないエネルギー集団
あなたがそのもとに
なっているのですねえ

魚は手がなまぐさいし、肉はつめたい
野菜の泥は手のひらに入ってしまった
足も腰も冷えて
でもやっぱりやってよかった
みんなあんなに喜んで買っていました

ひとに喜んでもらうって いいものね
―柄にもなくこんな風に思います―

人参はうめの花に切ったし
こいもはこと煮えています
黒豆もおつゆをふくませているところ

わたしたちの売った
ありとあらゆるたべものは
今 食べられるために
数千軒の台所にひかえています
この国の正月の

昔ながらのしきたりに従う母親
新しい流儀でやってのける若い妻も
一年中でいちばんたっぷりと
食べ物をみたした
台所に立って春を待っています

「ではいいお年を。」

(一九七七年)

キリトリ

Ripple おたよりネット

(ペンネームOK)

●地域名

●お名前

●組合員コード

●班名

消費材の苦情についてはこの用紙でなく、電話またはメモで。この欄への投稿・ご意見は紙面でご紹介することがあります。

理事会事務局行き
212号(2020.8.24)